

令和6年度「清流の国ぎふ」SDGs推進会議（第1回）

議事録（要旨）

- 日 時：令和6年月8日20日（火）～9月3日（火）
 ○開催方法：書面開催
 ○議 題：岐阜県 第2期SDGs未来都市計画の実施状況について

委員から頂いた意見

No	内 容
1	<p>岐阜県ワークライフバランス推進エクセレント企業の認定数について、単年度目標である250社の認定に対し、進捗状況が198社である。今年度の認定が年始であり、その数値が反映されていないタイミングであるため現状の進捗では評価は難しいが、毎年の平均的な認定企業数からすると目標達成は難しいと推測される。</p> <p>企業が認定を受けるための申請ハードルが高いと感じられたり、認定取得後のメリットが見えづらいなど、原因把握に努めていただきたい。その上で、申請条件にあたる岐阜県ワークライフバランス推進企業の新規登録を増やす、すでに推進企業として登録している企業へのエクセレント登録を促すアプローチ、募集期間や実施回数の見直しなど対策を講じてほしい。</p>
2	<p>未来都市計画 KPI の達成率の評価が項目によって A と D の両極に大きくばらついている。今の延長線では到底、達成できなさそうな項目がある一方、このまま自然体で何の努力もしなくても達成できてしまいそうな項目もある。</p> <p>未達成の D 項目一つ一つを点検していく作業よりも大事だと思われるのは、D の中でどの項目の優先順位が高いのか（すなわち、県としてこれは絶対達成しなければならない、CO2 削減へのインパクトが大きな項目）、あるいは D の中でどの項目は達成しなくても環境に大きな影響がないのか（環境的にはさほど大差ない）。といった視点で、いわゆるマテリアリティ（優先順位）をもういちど考えなおしてよいのではないか。</p> <p>とりわけ、D の項目の中には、岐阜県として政策投下すれば変化を確実に与えられそうな指標と、ほぼ観測指標にすぎず、県として力を入れても動かない KPI もある。こうしたことも考慮に入れ、政策によってレバレッジが効く項目に集中すべきだと思われる。</p> <p>私個人としては、（1）環境面—8「人口造林面積」は岐阜県らしさと炭素吸収量の両方に効く項目であり、また投資すれば確実に効果が得られると思われる。</p> <p>また、マテリアリティを考慮したうえでの話だが、評価 A の項目は「その目標の設定が低すぎるのではないか」（例えば(3)-29 障がい者雇用率は、目標値が法定雇用率の下限である）、評価 D の項目は「目標が高すぎるのではないか」と、目標値の調整も考慮すべきである。</p>

3	<p>県民の SDGs 達成に向け行動に移した割合で、「何をしたいのかわからないから」という声に対して、どのようなことが SDGs と結び付いているのを認識できていないだけだと考えます。周知活動は十分だと思いますので、様々な場所で具体的な事例がでていきますので、リスト化したり示すことができれば数値は大きく変化すると考えます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では多くの学校が SDGs の学習を取り入れているが、その内容は 17 の目標を覚えることが中心で、身近なテーマや生活の中で実践できることとしては認識されていない。 ・環境学習の観点からは、「海洋プラスチック問題」「パーム油」「フードロス」「エネルギー」など、さまざまなアプローチが可能だ。しかし、多くの学校が何を教えるべきか迷っているように感じる。 ・市民の多くは SDGs という言葉は知っているが、実際に行動に移している人は少ない。脱炭素、省エネルギー、3R などの小さな取り組みを積み重ねることが、現在の環境の悪循環を好循環に変える鍵であり、SDGs 活動の一環となる。 ・県内の公共施設にアンケート調査が必要である。少なくとも県の施設には、各施設がどのテーマに関連しているかを掲示し、職員の SDGs 理解を促進する必要がある。(施策にあげられているのに SDGs を全く掲示していない所もある) ・定期的に県内の登録企業や公共施設に対して、「SDGs は広まっていますか？」といった景気実感のようなアンケートを実施するとよい。全体の動向がつかめるとよい。